

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20500523

研究課題名(和文) 地域連携プログラム～直接的に体力を高めるためのダンスの教材づくりと実践

研究課題名(英文) Program of Collaboration with Local Communities Development of Teaching Materials and the Practice of Dance to Directly Increase the Physical Strength of Children

研究代表者

高橋 るみ子 (TAKAHASHI RUMIKO)

宮崎大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：50197191

研究成果の概要(和文): 本研究は、宮崎市の子どもたち(以下、M-KID'S)の体力低下・運動嫌いを防止するために、舞踊学研究室(大学)と宮崎市教育委員会(地域)が連携して開発した「M-KID'Sエクササイズ」の伝達と活用を推進するプロジェクト「M-KID'Sエクササイズ事業」(平成18年度～平成21年度)の実践分析である。

研究期間内に、3つに観点(音楽に合わせた楽しいエクササイズ、M-KID'Sのシンボル、心と体の健やかな成長)から、プロジェクトの成果と課題を明らかにした。さらに、新たなプログラムの提案・実施を通して研究成果を広く地域へ発信した。

研究成果の概要(英文): This research paper contains an analysis of the outcome of the "M-KID'S Exercise Project" (School Year 2006 - 2009) that was jointly developed by the (University) Dancing Laboratory and the Miyazaki City Board of Education (representing the local community) in order to promote the physical strength of children in Miyazaki City (hereafter M-KID'S) and foster their enjoyment of physical exercise.

During the project period, achievement of and challenges to the project were identified from three perspectives: Use music with exercise, Establish a symbol of M-KID'S, and Nurture healthy growth of body and mind. Furthermore, a new program was proposed and carried out to spread the project results throughout the local community.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、舞踊教育

キーワード：体力向上，表現運動，ダンスエクササイズ，地域連携

1. 研究開始当初の背景

(1) 教科調査官(2006.4～2008.3)の今関氏は、講演「体育学習における指導と評価の充

実」(平成17年度子どもの体力低下・運動嫌い防止のための指導者の養成を目的とした研修、2005)の中で、スポーツ及びダンスに

かかわる領域においても、従来のねらいに加えて、これからは直接的に体力を高めることや、「体づくり運動」との関連を図ることが重視されると述べ、それぞれの領域が取り扱う運動として、1.領域の運動、2.領域の運動と「体づくり運動」の趣旨・ねらいと関連させた運動、3.領域の特性に触れるために必要な体力を高める運動、を示した。

(2) 一方、ダンスに関わる領域である小学校の表現運動は、これまでは「踊りを楽しむことができるようにする」や「友だちの踊りのよさがわかるようにする」指導が中心であり、体力については、他のスポーツと同様に、「領域の特性に触れるために必要な体力」を「養成する」(第3学年及び第4学年)や「高める」(第5学年及び第6学年)に止まっていた。また、それで十分であると考えられてきた。そこで、地域と大学は、直接的に体力を高めるためのダンス教材 M-KID'S エクササイズ(以下、エクササイズ)を開発し、今関氏が示した領域の運動と「体づくり運動」の趣旨・ねらいと関連させた運動(前述)の事例として提出した。さらに、開発したエクササイズの伝達と活用を推進するプロジェクトを協働でスタートさせた。

## 2. 研究の目的

研究期間内に、3つに観点(1.音楽に合わせた楽しいエクササイズ、2.M-KID'Sのシンボル、3.心と体の健やかな成長)から、「M-KID'S エクササイズ」(以下、エクササイズ)の伝達と活用を推進するプロジェクトの成果と課題を明らかにする。具体的には、エクササイズが、体育の授業や学校教育に限らず地域のイベント等においても活用されている等、子どもたちの身近な存在になっていることを実証する。そして、地域(大学を含む)に、M-KID'Sの体力低下と運動嫌いを防止するための協力体制を構築する。

## 3. 研究の方法

(1) 実践研究とアンケート調査から、エクササイズの取り組みの実態とその成果について明らかにする。

宮崎市内の小学生と教員を対象に実践研究を行う。そして、高橋らが開発したエクササイズが、M-KID'Sの心と体の健やかな成長に及ぼす影響を明らかにする。

宮崎市内の小学校の体育主任を対象に、各年度末にアンケート調査を行い、プロジェクトに対する体育主任の意識とエクササイズの取り組みの実態について明らかにする。

心理的手法を用いて、エクササイズがM-KID'Sの運動やスポーツへの意欲を間接的に喚起するものであることを明らかにす

る。

(2) 以上の結果から、エクササイズの活用と推進を目的としたプロジェクト(1.宮崎市小学校陸上大会におけるウォーミング・アップ、2.体育主任等を対象とした伝達講習会、3.学校訪問による実技指導、4.M-KID'Sエクササイズコンクール、5.研究指定校における授業研究、6.地域のまつり「えれこっちゃんみやざき」との連携プログラム)の成果を考察し、広く地域へ報告する。

## 4. 研究成果

(1) 研究期間の最終年度は、プロジェクト開始5年目となる。そこで、これまでは年度末に実施してきた市内小学校体育主任に対するアンケート調査を8月に実施した。以下にその結果を示す。

平成21年度のM-KID'S(小学5年生)の体力・運動能力を4年前のそれと比較すると、全国平均を下回った項目は、男子は2から1へ、女子は7から1へ減少した。また、全国平均を上回った項目は、男女共に1から7へ増加した。これらM-KID'Sの体力向上に「エクササイズの活用が一助になったと思うか」の問に対し、半数の体育主任は「思う」と回答していた。しかし、その回答の割合は、自校の体力向上プログラムにエクササイズを取り上げている学校とそうでない学校とで大きな違いは見られなかった(図1)。「体を動かす楽しさを十分に味わうことができるエクササイズだと思う」、「運動量が多く、一人一人の体力向上につながると思う」の問いに対しては、主任歴の長短で回答に違いが見られた。主任歴3年以上(=プロジェクトへの参加が3年以上)の体育主任の半数が「思う」と回答していた(図2)。

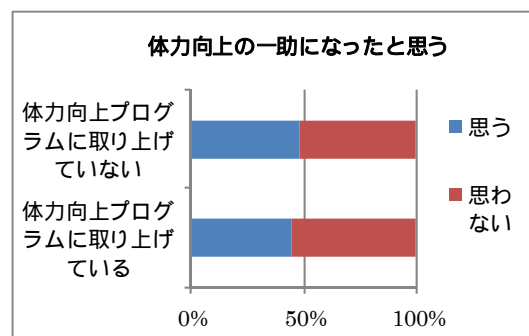


図1 エクササイズに対する評価  
(作図: 高橋 2010)

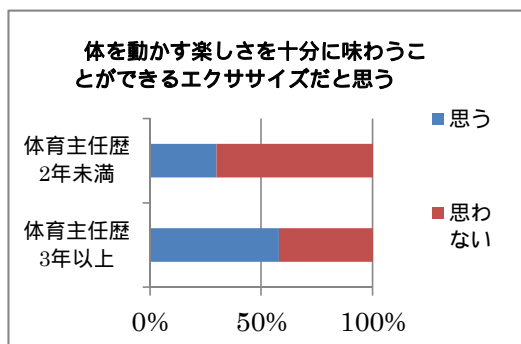


図2 エクササイズに対する評価  
(作図：高橋 2010)

各学校での取り扱いは年々増加し、全ての学校が教育課程の中にエクササイズを位置づけるようになってきているが、位置付け方は少しずつ変容している(図3)。授業での取り扱いについては、「よい準備運動である」と

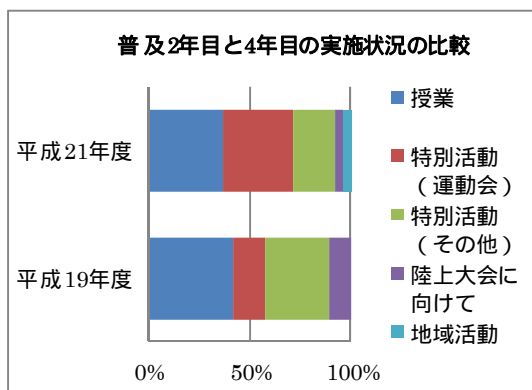


図3 学校教育における実施状況の変容  
(作図：高橋 2010)

捉えている体育主任は半数以下であった(図4)。また、体育科の授業での積極的な活用を考えている体育主任も少なかった(図5)。「子どもたちが動きを覚えるのに時間がかかる」がその理由の一位である。伝達講習だけでは、指導者の「難しい」という捉え方は払拭できなかったと言うことであろう。しかし、運動会での実施の割合は増加しており、主任歴3年以上の体育主任の半数は、運動会での活用については「定着したと思う」と回答している(図6)。

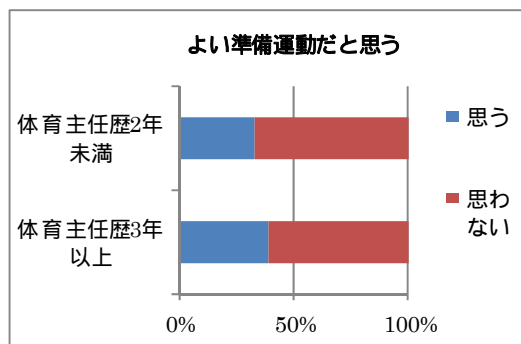


図4 エクササイズに対する評価  
(作図：高橋 2010)

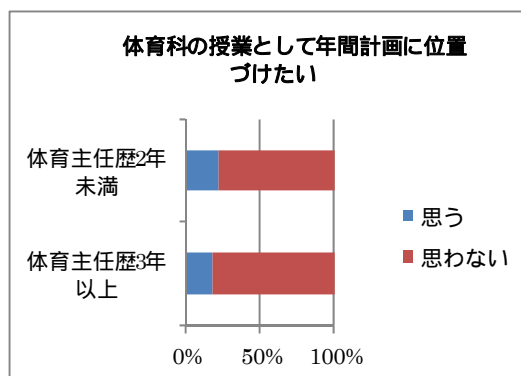


図5 エクササイズに対する評価  
(作図：高橋 2010)

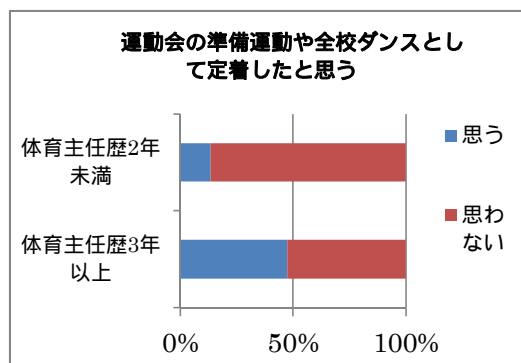


図6 エクササイズに対する評価  
(作図：高橋 2010)

(2)エクササイズの児童への心理的効果を探るために、市内の2小学校の協力を得て、子どもたちの体力向上につながる運動有能感について調査を行った。その結果、教員自身がエクササイズの楽しさを見出し、かけ声や動きの工夫を行い、さらに児童と一緒に明るく元気に踊るといった教員の姿勢と指導が、M-KID'Sの運動有能感(「学習意欲」「楽しさ」「運動への自信」)を高めることが明らかになった。この指導者のエクササイズに対する関わり方については、前述のアンケートからも明らかで、主任歴2年未満の体育主任と3年以上の体育主任の回答を比較す

ると、エクササイズを活用することで「体を動かす楽しさを十分に味わうことができる」「エクササイズに親しみを感じている子どもが多い」「エクササイズを通して楽しく運動に取り組もうとする子どもたちが増えた」のそれぞれの問いに対し、「そう思う」と回答した割合は、後者が前者の約2倍となっていた。

(3) 地域社会との連携については、第22回スポーツレクリエーション祭「スポレクみやざき2009」での採用（オープニング・アトラクション）や、プロジェクトの趣旨に沿ったイベントの開催や、地域に児童が披露するための場が設定される等、M-KID'Sの体力向上のための協力体制が整った。またメディア露出の増加に伴い、保護者や市民一般のプロジェクトに対する興味・関心のベクトルが学校へ向かい、それが運動会等での活用増加の一因となっていた。

(4) 総括すると、学校及び地域におけるエクササイズの活用と普及を目的としたプロジェクトは、体育科に限ればその取り扱いに改善の余地は残しながらも、地域と学校が連携することで、M-KID'Sの体力向上を図ることができたという点において、有効なプロジェクトであったと言える。以上のことから、直接的に体力を高めるためのダンスの教材づくりの地域における有効性を検証する本研究の目的は十分に達成されたと考える。なお、本研究の結果と分析・考察を冊子（宮崎大学舞踊学研究室のチャレンジ・地域連携プログラム・M-KID'Sエクササイズ事業）にまとめ、市内の小学校及び関係団体に配布した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

高橋るみ子，地域連携プログラム：直接的に体力を高めるダンスの教材づくりと実践（平成18～20年度），日本体育学会体育方法専門分科会会報，査読有，第36号，2010，123-126

〔学会発表〕（計2件）

高橋るみ子，地域連携プログラム～直接的に体力を高めるダンスの教材づくりと実践（平成18～20年度），日本体育学会第60回記念大会，2009.8.27，広島大学東広島キャンパス

高橋るみ子，地域連携プログラム

「M-KID'Sエクササイズ事業」直接的に体力を高めるための教材づくりと実践，日本体育学会第61回大会，2010.9.10，中央大学豊田キャンパス

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

[www.odosupo.com/miyazakidancecenter.pdf](http://www.odosupo.com/miyazakidancecenter.pdf)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

高橋 るみ子（TAKAHASHI RUMIKO）  
宮崎大学・教育文化学部・准教授  
研究者番号：50197191

##### (2) 研究分担者

秦泉寺 尚（JINZENJI HISASHI）  
宮崎大学・教育文化学部・准教授  
研究者番号：50136800

##### (3) 連携研究者

研究者番号：